

たろ

TAKUSUI
No. 769

11
November.2020

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



全国豊かな海づくり大会に向けて(明石市)

全国豊かな海づくり大会兵庫大会 リレー放流 in 明石 日本海 松葉ガニ漁 解禁

《今月の海上安全標語》～最後まで気を抜かず～

年内も残すところあとわずかとなりました。最後まで決して気を抜くことなく無事故で今年を終えて、気持ちよく新しい年を迎えましょう。

あと少し 無事故で一年 終えましょう では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真つ直ぐに」

(ようそとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときに号令として使われる)

心に残る海の風景

兵庫県農政環境部農林水産局水産課 主査 榎本 陽子



皆さんには、心に残る海の風景はありますか？私には思い出深い大切な海の風景が四つあります。

一つ目は、愛知県の知多半島から望む伊勢湾です。私は高校を卒業するまで名古屋に住んでいました。名古屋から車で一時間程度の知多半島には、よく海水浴や釣りに連れていかれてもらいました。遊び疲れた帰りに知多半島から見る夕暮れの伊勢湾は格別で、茜色に輝く海面と浅瀬に立ち並ぶ海苔ひびの先端にとまる海鳥のシルエットが、今でも懐かしく思い出されます。

二つ目は大学時代を過ごした鹿児島県の錦江湾（鹿児島湾）です。錦江湾は海と桜島が一体です。群青色の湾の中央に噴煙を上げてそびえる桜島は、朝は清々しく、昼は雄々しく、夕暮れは紅に染まり、夜は月明かりにより漆黒の影となって海に浮かびます。大学在学中に毎日見続けた錦江湾と桜島は、私の人生の原点とも言えます。

三つ目は沖縄の海です。大学ではダイビング部に所属し、毎年夏休みには沖縄の離島で約一ヶ月間合宿をしていました。合宿は島の公民館を借りて当番制で自炊をし、寝袋で板間に雑魚寝する極貧生活で、朝から夕方まで海に潜り、魚や珊瑚を観察していました。毎日潜る南の海は、暖かでキラキラと眩しく、沢山の魚と珊瑚が織りなす極彩色の世界で、この世のものとは思えない夢のような風景でした。

四つ目は瀬戸内海です。入庁以来、兵庫で過ごした時間は今や人生の約半分を越えました。私にとって、瀬戸内海は仕事場であり、結婚や子育て、やがて訪れる老後の生活に根付いた現在進行形の海です。

私は但馬での勤務経験がありません。この先但馬に転勤したときは、但馬の海が私にとって五つ目の大切な風景になればと思っています。

人にはそれぞれ慣れ親しんだ海の風景があると思います。漁業者の方にとっては掛け替えのない生活の場である兵庫の海、その兵庫の海が未来永劫美しく豊かであるように、微力ですが、これからも関わっていききたいと思えます。

CONTENTS

No.769 November. 2020

- 2 ようこそ
- 3 大日本水産会 水産功績者決定
県功労者表彰
日本海 松葉ガニ漁 解禁
- 4 全国豊かな海づくり大会兵庫大会 大会記念リレー放流 in 明石
淡路水交会の「漁業者による森づくり」
- 5 大輪田塾だより
- 6 おいしい御食国ひょうご
- 7 兵庫JCC通信
- 8 旬に想う
農業 × 漁業の若手組織連携プロジェクト



表紙の言葉

「全国豊かな海づくり大会に向けて」(明石市)

新型コロナウイルス感染症の影響により、1年延期し、令和4年に開催することになりました第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会～御食国ひょうご～に向け、大会の開催地である明石港でリレー放流が行われました。

コロナウイルス感染症が終息し、無事に大会が開催されることを願います。(関連記事4項)

大日本水産会の令和2年度水産功績者が決定

～兵庫からは田和 正孝氏(関西学院大学 文学部教授、大輪田塾運営委員)が受賞～



田和 正孝 氏

大日本水産会(白須 敏朗会長)は、10月22日(木)に令和2年度の水産功績受賞者40名を発表しました。
兵庫からは、水産業の振興と発展に功績があった田和 正孝氏が選ばれました。
表彰式は、コロナウイルス感染症の影響により、本年度は見合わせになりました。
心よりお慶び申し上げますとともに、今後益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

令和2年 県功労者表彰



戎本 裕明 氏



岡田 武夫 氏

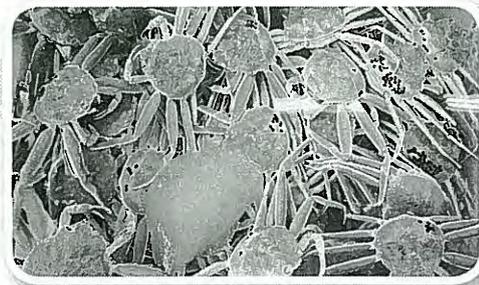


長 一仁 氏

【農林水産功労】

兵庫県は11月3日(火)、「令和2年県功労者表彰」の受賞者の発表を行い、水産関係からJF明石浦代表理事組合長 戎本 裕明氏、JF坊勢代表理事組合長 岡田 武夫氏、香住水産加工業協同組合代表理事組合長 長 一仁氏の3名が選ばれました。なお、授賞式は11月18日(水)に神戸市中央区の県公館で行われました。

日本海 松葉ガニ漁解禁!!



日本海の冬の味覚、ズワイガニ(松葉ガニ)漁が、富山県から島根県までの1府6県で11月6日(金)に一斉に解禁となりました。日本一の水揚げを誇る兵庫でも、JF但馬、JF浜坂所属の沖合底曳船44隻が次々に出港し、解禁の午前0時を待って一斉に網を投入しました。
この漁の操業は3月20日まで行われますが、資源を守るために様々な自主規制を設けています。

公休日の設定

11月中に公休日を設定し、各船が32時間以上の休みを3回以上設ける。

漁期の短縮

メスガニ(セコガニ)は、本来1月20日までのところ12月31日まで。

若マツバガニ(ミスガニ)は、本来11月6日～3月20

日までのところ、2月1日

日から2月28日まで。

その他、航海日数によるメスガニや若マツバガニの採捕数制限や甲幅制限(漁獲禁止サイズ)等があります。

いよいよ解禁となった松葉ガニ漁。今漁期の豊漁と安全操業を祈念します。

(文：JF兵庫漁連)



初セリで250万の値が付いた松葉ガニ

第41回 全国豊かな海づくり大会兵庫大会

～御食国ひょうご～

大会記念リレー放流 in 明石が実施される

令和2年11月10日（火）、明石市立中崎小学校3年生児童、JF明石浦、行政関係者が集まり、令和4年に開催される第41回全国豊かな海づくり大会の開催地である明石港で、リレー放流が行われました。

全国豊かな海づくり大会推進室 小林 孝司室長の挨拶の後、中崎小学校の児童は明石港ペランダ護岸でのマダイ放流、釣り堀（あつとしいー）での魚釣り体験、豊かな海と明石の魚を学ぶイベントを体験しました。

令和4年秋の大会本番に向けて、県内各浜、河川等で大会記念リレー放流が順次開催されます。



豊かな海についての座学



マダイの稚魚を興味深く観察



釣り堀体験



参加者記念撮影

淡路水交会の「漁業者による森づくり」

一般社団法人淡路水交会（東根 壽会長）が主催する「漁業者の森づくり」が11月10日（火）、淡路市の山林で行われ、ウバメガシ300本を植樹しました。

この活動は、漁業者がウバメガシや間伐材を使った、柴漬けによる産卵床の設置によりアオリイカなどの水産資源の増大を図る活動と、一般県民と力をあわせた漁業者の森づくり活動を連携して行い、環境保全と地域貢献を図るもので、今回で12回目となります。

コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年は規模を縮小し、島内JF役職員、漁青連、女性連のほか、行政や系統団体職員を加えた約50名が集まりました。参加者らは植樹手順の説明の後、苗木と土嚢に入った土を次々に運び込み、用意した苗木を植樹しました。

豊かな海の再生に向けて、また、アオリイカ増殖に繋がる「森づくり」事業は、今後も淡路の各地で展開されていきます。



大輪田塾だより

令和2年度大輪田塾修了式ならびに入塾式開催
 第13期生1名、14期生7名が修了

修了生の紹介

氏名(期)	所属
吉岡 力男 (13期生)	J F 但馬
戎谷 道男 (14期生)	J F 明石浦
福井 健二 (14期生)	J F 林崎
松本 浩次 (14期生)	J F 高砂
桂 貴昌 (14期生)	J F 坊勢
菱谷 維起 (14期生)	J F 淡路島岩屋
山本 忠寛 (14期生)	J F 浜坂
奥田 芳憲 (14期生)	日本漁船保険組合 但馬支所

(敬称略・順不同)



修了生の記念撮影

(前列左から:松本さん、戎谷さん、奥田さん、山本さん、田沼県漁連会長、東根塾長、長島水産課長、吉岡さん、桂さん、菱谷さん、福井さん)

幅広い視野をもった将来の水産業界をリードしていく「浜のリーダー」を育てることを目標に、様々な研修・講義を行っている大輪田塾で修了・入塾式を執り行いました。今年10月27日(火)に、神戸市内のホテルにて、令和2年度大輪田塾修了式ならびに入塾式が行われ、13期生1名、14期生7名が修了するとともに、16期生となる新入塾生6名が入塾しました。

東根 壽塾長(兵庫県水産振興基金理事

長)、県水産課長長島浩課長をはじめ、同塾運営委員、県・系統役職員など約50名が出席するなか、修了式では、修了生が一人ずつ東根塾長から修了証書を手渡された後、「決意の言葉」を述べました。その後、15期生濱田直樹さん(JF淡路島岩屋)からの「送る言葉」を受けた8名は決意を新たに修了しました。

続いて行われた入塾式では、新入生代表の大塚将太さん(JF一宮町)が力強く「誓いの言葉」を述べたのち、15期生永松航さん(JF坊勢)から歓迎の言葉が贈られました。式は、東根塾長の訓辞、来賓の県水産課長島課長、JF兵庫漁連田沼政男会長から祝辞を頂き、終了しました。

このあと関西学院大学文学部教授(大輪田塾運営委員)田和正孝氏による記念講演「兵庫瀬戸内におけるアナゴ延縄漁業の記憶と記録」が行われました。戦後、兵庫瀬戸内の各地で活発に行われていた延縄漁の漁業活動、技術や環境、漁業生活に関して、漁業者からの聞き取りにより得られた結果について話されました。

修了生のこれからの活躍を祈念するとともに、新たに加わった16期生の塾での頑張りにも期待します。



入塾生の記念撮影

(前列左から:下垣さん、森さん、大塚さん、田沼県漁連会長、東根塾長、長島水産課長、高濱さん、高瀬さん、岡坂さん)

入塾生の紹介

氏名	所属	漁業種類
高濱 功匡	J F 林崎	船びき網
森 平登	J F 坊勢	船びき網
高瀬 晃	J F 飯屋	底曳き漁業
大塚 将太	J F 一宮町	のり養殖、 底曳き漁業
岡坂 浩一	J F 但馬	漁協職員
下垣 勝	日本漁船保険組合 兵庫県内海支所	系統職員

(敬称略・順不同)

みけつくに

おいしい御食国ひょうご



買って まんぶく キャンペーン!

直売所で2,500円 お買い上げ
ごとに

500円分の金券進呈!

次回のお買い物からご使用いただけます

キャンペーンポスターが掲示されている店舗で実施

金券の枚数には限りがあるため、店舗により早期終了する場合がございます。

※1回のお買い物が10,000円以上の場合は、金券のお渡し上限は4枚となります。

お問い合わせ

兵庫県農政環境部農政企画局楽農生活室

TEL.078-362-3444

受付時間/平日9:00~17:00



キャンペーン期間

金券進呈期間

令和2年11月1日①~12月31日②

金券利用期間

令和2年11月1日①~令和3年2月28日②

※各店舗により、開始日・終了日が変わります。

キャンペーンの詳細・開催直売所はホームページをご覧ください

<http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk03/2020otokuchokubai.html>

買ってまんぶくキャンペーン!

Q 検索

QRコードを読み込んでHPIにアクセス



兵庫県
Hyogo Prefecture

地域に根ざしたJAとして 組合員や地域住民の 健康と暮らしを守る

JAハリマでは、組合員や地域住民の健康を守るために、地域に根ざした取り組みを行っています。

平成5年に設置した「みどり診療所」はその一つです。高齢化率が県内の他地域と比べて高いことや、当時は穴粟市一宮町に公立の診療所がなかったことが問題となっていました。このような中、JAは地域に根ざした組織として農村医療や福祉を守る必要があると考え、全国でも珍しいJA直営の医療施設を設置しました。

同診療所は「地域の健康づくりの拠点」として、内科のほか、眼科、理学診療（リハビリテーション）科を備えています。また、通院が難しい患者のために往診も行っています。利用者は地域の子供からお年寄りまで幅広く、1日平均80人ほどが来院します。JAは医療事業とともに、「年金友の会」会員への予防接種の助成や、広報誌で組合員への健康情報の提供を行い、幅広く健康管理活動を行っています。

その他JAでは「ふれあい出前講座」を行っています。高齢者の引きこもり防止と住民同士のふれあいを目的に、組合員をはじめとする地域住民が、地元で採れた野菜を使った簡単料理教室、体操、歌唱、手芸、園芸といったさまざまな内容を楽しんでいます。運営にあたるJA職員は、参加者と共に楽しむことを大切にしています。この出前講座はJAと組合員・地域住民との大切な対話の場となっており、組合員の声をJA運営に生かしています。

JAでは、今後も安心して健康に暮らせる地域づくりに取り組んでいきます。



診療所内のリハビリテーション施設

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

生協マルシェ開催

姫路医療生活協同組合では、コロナ禍における新たなイベントとして「生協マルシェ」を2か月に1回開催しています。『地域のみなさまのつながる場所』をテーマに、組合員と地域住民が楽しみ、交流できる場所と時間を提供しています。参加型のイベントとして毎回出展者を募り、趣味の展示や特技の披露、手作り品の販売など、主催者と来場者両方が楽しめる内容を目指しています。来場者に安心して参加いただけるよう感染予防対策には細心の注意をはらい、事務所前の屋外駐車場にテントを張ってイベント会場にしました。

マルシェ内容は、

- ①手作り野菜の販売
- ②平和バザー（収益を平和活動に充てる活動）
- ③フードドライブ
- ④大豆から作ったソイワックスを使ってポプリを作るアロマワークショップ
- ⑤介護相談会 です。

第1回目の7月には41名、2回目の9月には54名の方にお越しいただきました。「医療生協はこんな活動もしてるんや!」「次回はいつあるの?」といった嬉しい声もいただき、2019年4月に開所した事務所『地域サービスセンター』を多くの方に知っていただく良い機会にもなりました。

小さなお子さま連れのお母さんや散歩途中の方にご来場いただき、コロナ禍で失われていた『当たり前の交流』がとても大切に思えた瞬間でした。今後も地域の皆さんと共に楽しいイベントを定期的で開催していきたいと考えています。



初めての方も多くご来場いただきました

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

河豚鍋

◆落語「河豚鍋」フグを初めて食べる男が二人、フグ鍋を前に思案顔で困っている所へ、乞食がお余りをと来る。コレ幸いとフグを与え、彼の様子をソツと観察、安心した二人がすっかり食べ終えゴ機嫌になる。そこへ乞食が再び訪ね来て…。フグ毒を怖がる話が笑いを誘う。類いまれな美味で、調理法も確立し毒の研究も進み、安全な魚としてスーパー店頭にも並ぶが、今も敬遠して絶対に食べないというゴ仁も多く居る。歌舞伎役者の八世坂東三津五郎が、京都の老舗でフグ中毒死したのは有名な話だ。肝臓や卵巣は絶対に食べられない。

◆縄文時代の遺跡にもフグを食べていた痕跡があり、日本人はフグを好んで食べたようだ。フグ毒で死ぬ者も当然に多く、禁止命も出たが旨い物には蓋は出来ない、フグ食は大いに普及した。死者も可成り多く、落語に出る『らくだ』の死因もフグだった。安土桃山期の朝鮮出兵の際、肥前に集まった武士が大勢フグ中毒で死んだ。怒った秀吉が「河豚食用禁止令」を出している。何故、フグに毒があるか。フグ毒の研究は古くからあったが、本格的な研究は明治になってからだ。近年食物連鎖で毒が発生すると突き止め、フグ自体が作り出す毒ではないと判ったが、テトロドトキシンの謎は今もあり研究は続けられている。

◆日本産フグは全て海産のため、漢字「河豚」は適当ではない。中国では淡水の魚を好む所から、長江などの大河に棲むメフグを指したものだ。フグは有毒魚というイメージが強いが、日本産29種のうち有毒は14種だ。まったく無毒のフグもある。だが素人料理は危険の上ない。毒の強さは種類によって大きく差があるが、卵巣や肝臓に毒が集中している。フグは過敏で神経質なため、噛み合う習性があり多数を水槽へ入れる場合は注意がいる。人の指だって食いちぎられるから、延縄漁で釣りあげたらペンチで歯を折る作業が必要だ。

◆007『ロシアより愛をこめて』でボンドがロシア人に傷つけられ意識不明になる。ナイフにフグ毒が塗ってあった。物語の展開に左程に影響しないため、映画化では省略されたが作者はかなり調べて書いている。フグ毒は神経や骨格筋を麻痺させ、食べると20分程で症状がでる。初め唇が少し痺れ、手足が麻痺して動けず、呼吸困難となり窒息する。死ななければ麻痺は回復した後遺症も殆ど残らない。薄くそぎ切りし、大皿に菊やボタンの花卉に見立てて並べ、透して皿の絵が見える。美味しさと劇毒を、併せ持つフグが愛され妖しい魅惑が感じられる。アラ何トモナヤきのふは過ぎて河豚汁(芭蕉)フグ文化万歳である。



わかめ詰め放題に挑戦

農業×漁業の 若手組織連携プロジェクト ～淡路産の農水産物イベント～

淡路地区漁協青年部連合会(山崎 大輔会長: JF淡路島岩屋)は、洲本市の農業後継者グループ「洲本市農業青年会議」と協力して、淡路島の農水産物PRや漁業やおさかなを知ってもらおうと、11月8日(日)淡路ハイウェイオアシスで第6回PRイベントを開催し、青年部員たちが淡路島のお魚販売店マップをはじめ多くの豊かな海についての広告を配布するとともに、アンケート調査を実施しました。

当日はコロナウイルス感染症予防としてマスクを着用、人にも距離をとりながら呼びかけるなど、例年とは違うスタイルでのイベントになりましたが、屋外で開催されたこともあり、当初予定していた人数以上のアンケート回答がありました。

また、タッチングプールには大勢の子供たちが水槽を取り囲み、普段見たり触ったりすることが出来ない、生きているサメなどに大興奮し、楽しい時間を過ごしてもらえたほか、ワンコインでビニール袋に塩蔵わかめを詰める「わかめ詰め放題」も盛況でありました。

今後も、観光客の動向など、これまでに実施したアンケート結果を参考にして、淡路島の食材や地域の重要な産業である一次産業を広くPRする活動へ結び付けていきます。



タッチングプールの様子